



## 平成30年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成29年11月7日

上場会社名 株式会社 ほくやく・竹山ホールディングス 上場取引所 札  
 コード番号 3055 URL http://www.hokutake.co.jp/  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 眞鍋 雅昭  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員管理本部 (氏名) 巖 友弘 TEL 011-633-1030  
 副本部長  
 四半期報告書提出予定日 平成29年11月10日 配当支払開始予定日 平成29年11月30日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 無  
 四半期決算説明会開催の有無： 有 (取引先・金融機関向け)

(百万円未満切り捨て)

### 1. 平成30年3月期第2四半期の連結業績（平成29年4月1日～平成29年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第2四半期	112,863	△1.3	1,043	52.6	1,570	38.8	984	43.3
29年3月期第2四半期	114,353	4.2	684	△26.0	1,131	△16.3	686	△10.4

(注) 包括利益 30年3月期第2四半期 1,072百万円 (165.7%) 29年3月期第2四半期 403百万円 (76.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第2四半期	40.05	—
29年3月期第2四半期	27.75	—

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30年3月期第2四半期	122,945	48,003	39.0	1,970.84
29年3月期	117,714	47,290	40.2	1,920.85

(参考) 自己資本 30年3月期第2四半期 48,003百万円 29年3月期 47,289百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期	—	12.50	—	7.50	20.00
30年3月期	—	7.50	—	—	—
30年3月期(予想)	—	—	—	7.50	15.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

平成29年3月期の中間配当12円50銭の中に、当社設立10周年および当社連結子会社の(株)竹山創業80周年記念配当5円が含まれております。

### 3. 平成30年3月期の連結業績予想（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	226,000	△1.2	2,000	△4.0	3,000	△0.2	1,800	82.1	73.25

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	30年3月期2Q	25,000,000株	29年3月期	25,000,000株
② 期末自己株式数	30年3月期2Q	643,321株	29年3月期	381,121株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	30年3月期2Q	24,573,030株	29年3月期2Q	24,746,200株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に掲載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社および当社グループが現時点で入手可能な情報に基づいております。実際の業績は、今後様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	12

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用や所得環境の改善が続く中で、各種政策の効果による穏やかな回復が期待されております。一方、海外経済の不確実性や金融資本市場の不安定さが懸念され、先行きが不透明な状況となっております。

医療業界におきましては、社会保障制度改革として医療・介護の提供体制の見直しと地域包括ケアシステムの構築が示されています。

このような経営環境の中、当社グループは事業間連携によるシナジーの最大化を目指した経営を行ってまいりました。当期におきましては、介護事業において、北海道や各市町村、ならびに医療機関や介護施設などからのご依頼で道内各地区において合わせて六十回以上の介護ロボットの展示会や研修会を開催し最新の介護ロボット情報の提供ならびに普及活動を行いました。また、健康サポート薬局の支援や在宅医療・介護の分野でも、個々のご要望に応じてヘルスケア関連製品やサービスを、ワンストップでお届け出来る体制づくりに着手しております。さらに、それらを通じて、患者様とご家族、そして医療・介護を提供される方々の利便性や効率性の実現に取り組み、総合ヘルスケア企業として切れ目のない地域連携に貢献してまいります。

以上の状況のもと、当第2四半期連結累計期間における売上高は1,128億63百万円（前年同期比1.3%減）、営業利益は10億43百万円（同52.6%増）、経常利益は15億70百万円（同38.8%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は9億84百万円（同43.3%増）となりました。

セグメント別の状況は次のとおりです。

## (医薬品卸売事業)

医薬品卸売事業におきましては、使用促進政策の影響により後発医薬品の売上は前年同期比7.7%増加いたしました。長期収載品では売上高が前年同期比16.2%減少した影響により、全体では前年を下回る結果となりました。利益面では、販管費の削減に加え、生活習慣病薬、抗がん剤などの新製品への注力や品目毎のきめ細かい価格管理に継続して取り組んだものの、依然厳しい状況となりました。

その結果、売上高は840億80百万円（前年同期比0.5%減）、営業利益は3億73百万円（同14.6%減）となりました。

## (医療機器卸売事業)

医療機器卸売事業におきましては、新築特需案件が多かった前年と比較して売上高ではやや下回っているものの、引き続き新築案件による備品受注獲得や、画像診断機器をはじめ眼科製品・手術装置関連機器などの大型機器の買い替え需要等も比較的順調に推移し利益面においても順調な推移となりました。

その結果、売上高は244億95百万円（前年同期比5.4%減）、営業利益は3億49百万円（同72.0%増）となりました。

## (調剤薬局事業)

調剤薬局事業におきましては、高額医薬品の使用量減少による落ち込みが見られたものの、新規開設店の売上が寄与したこともあり、売上高は安定的に推移いたしました。利益面では、薬局管理コストや労務コストなどの運営コスト削減努力が奏功し大幅増益となりました。

その結果、売上高は71億35百万円（前年同期比1.1%増）、営業利益は2億84百万円（同254.5%増）となりました。

## (介護事業)

介護事業におきましては、福祉用具レンタル・販売および住宅改修における営業員の増員・育成の強化をはかりました。また、新規事業所の開設や福祉用具サービス計画の作成提案から納品後のモニタリングの徹底に至るまでの顧客重視の戦略も奏功し、売上は順調に推移いたしました。介護保険施設においては、平成27年度の介護報酬改定以降は厳しい状況が続いておりますが、本社からの支援体制の強化や介護職員育成の継続により、売上および利益面で前年を上回ることができました。

その結果、売上高は13億86百万円（前年同期比5.7%増）、営業利益は1億19百万円（同25.1%増）となりました。

## （ICT事業）

ICT事業におきましては、売上面では情報機器関連ビジネスや、クリニック・調剤薬局等に対する各種パッケージ販売等が堅調に推移いたしました。一方、利益面におきましては、前年に比較し利益率の高い開発案件が増加したことにより、前年同期を上回ることとなりました。

その結果、売上高は7億34百万円（前年同期比18.2%増）、営業利益は2百万円（同296.7%増）となりました。

## （2）財政状態に関する説明

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、売上債権および仕入債務の増加等により、当第2四半期連結会計期間末には207億92百万円（前年同期比18.8%増）となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

## （営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果獲得した資金は46億21百万円（前年同期比163.2%増）となりました。これは主に税金等調整前四半期純利益が15億65百万円（同38.8%増）、減価償却費5億18百万円（同2.4%減）、売上債権の増加9億2百万円（前年同期は9億76百万円の減少）、たな卸資産の増加4億80百万円（前年同期比25.4%減）、仕入債務の増加46億46百万円（前年同期は2億78百万円の減少）および法人税等の支払額5億95百万円（前年同期比38.1%減）によるものであります。

## （投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は12億7百万円（前年同期比15.1%増）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出1億30百万円（同11.5%減）、無形固定資産の取得による支出82百万円（同67.2%増）および投資有価証券の取得による支出10億6百万円（前年同期は17百万円）によるものであります。

## （財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は4億34百万円（前年同期比21.2%減）となりました。これは主に、自己株式の取得による支出1億74百万円（同72.2%増）および配当金の支払1億83百万円（同1.3%減）によるものであります。

## （3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第2四半期におきましては、医薬品卸売事業について、計画を上回るコスト削減に加え、フィービジネスでの利益獲得により当初の利益計画を上回りました。また、医療機器卸売事業について、計画を上回る売上げにより機器・備品で予想以上の利益となったことと、調剤薬局事業について、薬局管理コストや労務コストなどの運営コストの削減努力が奏功し、利益面で当初計画を大幅に上回りました。よって、当第2四半期連結累計期間における業績の進捗状況および下期見通しを勘案し、平成29年5月12日に発表しました平成30年3月期の連結業績予想を以下のとおり修正いたします。

詳細につきましては、平成29年11月6日に公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株あたり当期純利益
前回発表予想（A）	百万円 225,000	百万円 1,300	百万円 2,100	百万円 1,200	円 銭 48.62
今回修正予想（B）	226,000	2,000	3,000	1,800	73.25
増減額（B－A）	1,000	700	900	600	－
増減率（％）	0.4	53.8	42.9	50.0	－
（ご参考）前期実績 （平成29年3月期通期）	228,713	2,084	3,005	988	40.04

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	17,813	20,792
受取手形及び売掛金	47,976	48,927
商品及び製品	14,371	14,859
仕掛品	0	3
繰延税金資産	498	616
その他	5,280	5,363
貸倒引当金	△11	△64
流動資産合計	85,928	90,499
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	6,500	6,369
土地	7,149	7,149
建設仮勘定	106	32
その他(純額)	493	501
有形固定資産合計	14,249	14,052
無形固定資産		
のれん	2,223	2,178
ソフトウェア	806	696
その他	79	100
無形固定資産合計	3,109	2,975
投資その他の資産		
投資有価証券	12,819	13,902
長期売掛金	539	497
破産更生債権等	19	16
長期貸付金	381	360
繰延税金資産	270	185
その他	748	728
貸倒引当金	△353	△272
投資その他の資産合計	14,426	15,418
固定資産合計	31,785	32,446
資産合計	117,714	122,945

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	64,024	68,671
短期借入金	50	—
1年内返済予定の長期借入金	0	1
未払法人税等	661	753
賞与引当金	768	898
役員賞与引当金	106	49
返品調整引当金	60	60
その他	1,176	1,054
流動負債合計	66,848	71,491
固定負債		
長期借入金	26	25
繰延税金負債	2,099	2,040
再評価に係る繰延税金負債	122	122
退職給付に係る負債	609	575
長期未払金	299	218
資産除去債務	256	259
その他	161	210
固定負債合計	3,575	3,451
負債合計	70,424	74,942
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,000	1,000
資本剰余金	12,222	12,222
利益剰余金	30,640	31,439
自己株式	△222	△396
株主資本合計	43,640	44,265
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,923	4,993
土地再評価差額金	△1,107	△1,107
退職給付に係る調整累計額	△167	△149
その他の包括利益累計額合計	3,648	3,737
非支配株主持分	0	0
純資産合計	47,290	48,003
負債純資産合計	117,714	122,945

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
売上高	114,353	112,863
売上原価	105,976	104,188
売上総利益	8,377	8,675
販売費及び一般管理費		
荷造費	441	438
貸倒引当金繰入額	10	—
給料	3,365	3,364
役員賞与引当金繰入額	49	49
賞与引当金繰入額	723	766
退職給付費用	189	181
法定福利及び厚生費	664	661
賃借料	157	143
その他	2,090	2,025
販売費及び一般管理費合計	7,693	7,631
営業利益	684	1,043
営業外収益		
受取利息	2	3
受取配当金	135	125
受取事務手数料	191	195
不動産賃貸料	64	75
持分法による投資利益	51	41
貸倒引当金戻入額	—	26
その他	78	136
営業外収益合計	524	604
営業外費用		
支払利息	1	0
不動産賃貸原価	49	51
遊休資産諸費用	11	10
持分法による投資損失	0	—
その他	14	15
営業外費用合計	77	77
経常利益	1,131	1,570
特別利益		
固定資産売却益	0	—
特別利益合計	0	—



(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
特別損失		
固定資産売却損	0	—
固定資産除却損	2	2
投資有価証券売却損	—	2
投資有価証券評価損	0	—
特別損失合計	3	4
税金等調整前四半期純利益	1,128	1,565
法人税、住民税及び事業税	722	710
法人税等調整額	△280	△129
法人税等合計	441	581
四半期純利益	686	984
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△0	△0
親会社株主に帰属する四半期純利益	686	984

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
四半期純利益	686	984
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△304	70
退職給付に係る調整額	21	18
その他の包括利益合計	△282	88
四半期包括利益	403	1,072
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	403	1,072
非支配株主に係る四半期包括利益	△0	△0

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	1,128	1,565
減価償却費	531	518
のれん償却額	140	82
貸倒引当金の増減額(△は減少)	8	△27
受取利息及び受取配当金	△138	△128
支払利息	1	0
持分法による投資損益(△は益)	△50	△41
固定資産売却損益(△は益)	△0	—
固定資産除却損	2	2
投資有価証券売却損益(△は益)	—	2
売上債権の増減額(△は増加)	976	△902
たな卸資産の増減額(△は増加)	△643	△480
仕入債務の増減額(△は減少)	△278	4,646
未払消費税等の増減額(△は減少)	75	△22
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	4	△6
賞与引当金の増減額(△は減少)	133	130
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△62	△56
未収入金の増減額(△は増加)	713	△85
預り金の増減額(△は減少)	△22	△35
その他	61	△73
小計	2,581	5,088
利息及び配当金の受取額	138	128
利息の支払額	△1	△0
法人税等の支払額	△962	△595
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,755	4,621
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△147	△130
有形固定資産の売却による収入	5	0
無形固定資産の取得による支出	△49	△82
無形固定資産の売却による収入	0	—
投資有価証券の取得による支出	△17	△1,006
投資有価証券の売却による収入	35	56
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による 支出	△875	—
事業譲受による支出	—	△56
貸付金の回収による収入	2	13
その他	△2	△2
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,049	△1,207

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の返済による支出	△100	△50
長期借入金の返済による支出	△35	—
社債の償還による支出	△100	—
自己株式の取得による支出	△101	△174
配当金の支払額	△185	△183
リース債務の返済による支出	△27	△26
財務活動によるキャッシュ・フロー	△550	△434
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	—
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	155	2,979
現金及び現金同等物の期首残高	17,345	17,813
現金及び現金同等物の四半期末残高	17,501	20,792

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間（自平成28年4月1日 至平成28年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント						合計
	医薬品卸売事業	医療機器卸売事業	調剤薬局事業	介護事業	ICT事業	その他	
売上高							
外部顧客への売上高	79,928	25,704	7,050	1,307	338	23	114,353
セグメント間の内部売上高又は振替高	4,556	197	4	3	283	856	5,901
計	84,484	25,901	7,055	1,311	621	880	120,255
セグメント利益	437	203	80	95	0	286	1,103

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

利益	金額（百万円）
報告セグメント計	1,103
セグメント間取引消去	△256
のれんの償却額	△129
たな卸資産の調整額	△33
四半期連結損益計算書の営業利益	684

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

「調剤薬局事業」セグメントにおいて、平成28年4月1日に株式会社カエデの株式を取得し連結子会社といたしました。

なお、当該事象等によるのれんの発生額は、「調剤薬局事業」セグメントで8億7百万円であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

## II 当第2四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						合計
	医薬品卸売事業	医療機器卸売事業	調剤薬局事業	介護事業	ICT事業	その他	
売上高							
外部顧客への売上高	79,751	24,294	7,125	1,383	286	21	112,863
セグメント間の内部売上高又は振替高	4,329	201	9	2	447	881	5,872
計	84,080	24,495	7,135	1,386	734	903	118,736
セグメント利益	373	349	284	119	2	312	1,442

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

利益	金額(百万円)
報告セグメント計	1,442
セグメント間取引消去	△292
のれんの償却額	△74
たな卸資産の調整額	△31
四半期連結損益計算書の営業利益	1,043

## 3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。